



みゆきレター



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。教職員を代表して心からお祝い申し上げます。また、今日まで物心両面で支えてこられた保証人の皆様におかれても喜びもひとしおとお喜び申し上げます。

さて、皆さんは2019年の4月に希望に胸を膨らませて福山平成大学に入學しました。振り返ればこの4年間は大変な時期でした。入学式から1か月後の5月1日には平成から令和に改元され、新しい時代の幕開けを予感させました。皆さんも心に誓うことがあったことでしょう。しかしながら、この年の12月に新型コロナウイルスが発生して世界は一変しました。日本でも翌年4月には緊急事態宣言、東京五輪・パラリンピック開催の延期と世の中はコロナ禍に覆いつくされました。本学でも授業の多くが遠隔授業となり、キャンパスライフの殆どを制限せざるを得なくなりました。その後もコロナは感染拡大の波を繰り返しながらも消えることはありませんでした。とはいえ、本学では細心の注意を払いながら軸足を「ウィズコロナ」に移し、今年度は原則すべての授業を対面授業にするとともに御幸祭を始め大学行事も可能な限りコロナ禍前の姿に戻しました。一方、昨年2月にはロシアのウクライナ侵攻が勃発し、毎日のように戦争の悲惨な状況がテレビに映し出されました。このことは、戦争の悲惨さ、日本の安全保障、世界の協調と分断等様々な問題を私たちに投げかけています。ウクライナ侵攻がもたらした資源

価格の上昇やサプライチェーンの混乱は世界的な物価上昇を招き、主要国の金融政策は40年ぶりにデフレ対応型からインフレ対応型に舵を切り、その結果為替相場は急激な円安になりました。また、デジタル化の進展は一段と加速し、昨年公開されたChatGPTは、AIが人間の知能を越えるシンギュラリティが間近に迫っていることを思わせました。

このように、皆さんが在学していた4年間は歴史的にも大きな変革期であったことは間違いありません。もしかすると皆さんには、コロナ禍によって期待したような大学生活を過ごせなかったという思いがあるかもしれません。しかしながら、遠隔授業を通じての学修やパソコンの習熟、危機対応や忍耐力の習得、同時代人として歴史的な事件の目撃等この時期に在学していたからこそ学べたことが数多くあったはず。皆さんがこれから船出する社会は様々な課題を抱えた予測のつかない社会かもしれないませんが、本学での学びを生かし、誰も経験したことのない4年間の学修を成し遂げたことに自信を持って社会人としての新たな道を歩んでもらいたいと思います。

さて、変化が激しい時代に生きる皆さんに、心にとめて頂きたい言葉があります。それは、「初心忘るべからず」ということと「生涯学習」ということです。

「初心忘るべからず」とは普通「初めの志を忘れてはならない」という意味で使われ

ますが、さらに世阿弥は晩年に書いた「花鏡」のなかで、三つの初心について語っています。まず、「是非の初心忘るべからず」、若い時に失敗や苦勞の結果身につけた芸は後々の成功の糧になるのだから常に忘れてはならないということです。二番目が「時々の初心忘るべからず」、年齢とともにその時々積み重ねて行く初心を忘れてはならないということです。最後に「最後の初心忘るべからず」、年をとつてもこれで終わりのこととはなく、老後には最後の初心があるのです。世阿弥は「命に終わりあり、能には生ある限り学び続けるべきであり、不断の成長をすることが出来るということです。世阿弥の指摘は、生涯学習やリカレント教育・リスキリングの重要性ともつながると言えるかもしれません。これまで日本では、社会人が再び大学で学ぶことが少なかったですが、これからはその時々の学びがより強く求められるでしょう。学べば新しい知識が身に付き、知識が身に着けば働くことがより楽しくなるでしょう。

皆さんが本学での学びと経験をもとに、その時々の初心を忘れずに、卒業後もさらに学びと成長を続け、充実した人生を送られることをお祈りして式辞といたします。

令和五年三月二十一日

福山平成大学

学長 富士彰夫

三つの「初心忘るべからず」





「実社会に羽ばたいていく皆さんへ」

本日の令和4年度福山平成大学学位記授与式にあたりご挨拶申し上げます。卒業生・修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

さて、卒業生・修了生の皆さんの多くは、平成31年4月に入学されましたが、翌年の令和2年1月より日本国内における新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、日常生活において様々な制約と混乱が生じ、入学時には全く想定できなかった4年間の学生生活を過ごされましたが、皆さんは、辛抱強く日々精進され、それぞれの目標に向かって種々の困難を克服し、めでたく本日を迎えられる、明日より実社会へと羽ばたいていかれます。先ず以て、皆さんのこの間のご努力に心より敬意を表しますとともに、これまでの学生生活上の制約に対するご理解・ご協力に深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、新しい生活様式などの新たな課題をもたらした一方、日本国内においては、人口減少による生産年齢人口の減少問題と地域間格差の拡大、地域の弱体化等起因する医療提供体制の確立問題、高齢化の進展と人生100年時代の到来等による社会構造・産業構造の変化、気候変動がもたらす予想外の災害の発生など、様々な問題が山積しています。さらに、世界に目を向けると、国家・民族間の諸問題の解決に向けた取り組みや新たなパンデミックの到来への備えの他にも、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させる「カーボンニュートラル社会」の実現をはじめとする持続可能な開発目標（SDGs）の達成が地球規模で求められています。従って、私たちはこれらの国内外の問題を自らの課題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会を創造していくこと

が求められているのです。皆さんは、これまでに培われた知識・技術、取得された資格等を活用されながら、種々の課題に辛抱強く取り組み、ローカルにもグローバルにも活躍していただけるものと期待しております。

ところで、4年前の入学式において、私は理事長を拝命して初めてとなる入学式のご挨拶の中で、一代で世界的企業に発展させた経営者の遺訓を引用し、「未来は予測すべきものではなく、みずから創造していくべきもの」と申し上げました。コロナ禍やウクライナ情勢をはじめ予測不可能な時代の到来を迎えている今、この姿勢は今後ますます重要になると考えています。卒業生・修了生の皆さんが、多様性を秘めたアクティブな人材として今後の輝かしい人生を過ごすためにも、大学で身に付けられた「自分で情報を収集して、自分で考える」というアクティブ・ラーニングの姿勢を継続していくことが、これからも重要です。皆さんは、在学中に知識・技術を培われ、資格等も取得されたことと思いますが、卒業して社会に出ると、いかなる場面にも利用できるような画一的な「知識」などは存在せず、皆さん自身で情報収集を行い、その状況に応じて判断し、未来を切り拓いていく「知恵」の力が必要となるのです。また、キャリアは偶然の出来事の積み重ねの影響を大きく受けながら形成されるものであり、偶然の出来事を積極的な姿勢で最大限活用していくことが自らのキャリアの発展に繋がります。とすると「計画的偶発性理論」があります。皆さんはコロナ禍による予測不可能な様々な困難と制約に直面されましたが、それと同時に数々の偶然の出来事を経験されたことと思います。そして、日々努力を重ねられ、本日でたく卒業の日を迎えられました。その経験をどうか今後の

キャリアの糧にしてください。卒業生の皆さんが輝かしい未来の実現を目指し、これからも「揺るぎなく前進」されることを心より願っております。

そして福山平成大学の卒業生として、福山平成大学創設者の宮地茂先生が表明された「御幸五訓」すなわち、

- 一、真理を求め、道理の実践を志向する
- 一、豊かな品性と魅力ある個性を伸ばす
- 一、不屈の魂を養い、紐帯性を培う
- 一、生命を尊重し、自然を畏敬する心情を育む

一、誠実と倫を胸に刻み、夢の実現に挑むという理念をこれからも胸に刻み、実社会に羽ばたいてください。本学在学中に得た恩師・学友との絆はこれからの人生において貴重な宝であり、同窓会を通じて交流を深めていただき、自らを発展させるための糧としてくださるようお願いいたします。そして、いつでも気軽にこのキャンパスに足を運び、恩師に元気な顔を見せていただければと思います。卒業生の皆さんの活躍が、後輩諸君の一層の成長と学校法人福山大学の益々の発展に繋がるものと考えます。どうか皆さんには、福山平成大学の卒業生としての誇りをもつて、社会を担う貴重な存在へと成長いただくことを心から期待申し上げます。

最後になりますが、これまで慈しみ育てていただいたご家族への感謝の気持ちを大切にしてください。ようお願いますとともに、皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。お祝いと激励の気持ちを込めて、ご挨拶とさせていただきます。

令和五年三月二十一日

学校法人 福山大学

理事長 鈴木省三



福山平成大学

令和四年度学位記授与式 祝辞



卒業生・修了生の皆様、御卒業、誠におめでとうございます。長期化するコロナ禍の影響を乗り越えて晴れの日を迎えられた皆様はもとより、支えてこられた御家族・保護者の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。また、これまで熱意と愛情を持つて指導にあたってこられた学長をはじめ、諸先生方にも、深く敬意を表します。

私たちは、国際情勢の緊迫化、気候変動に起因する自然災害など、これまでに経験したことがない多くの困難や試練に直面しています。逆境を乗り越え、未来を切り拓くためには、常識や固定観念にとらわれず、時代の変化に即応できる柔軟な発想が必要となつてきています。

皆様は、人間性を尊重し、調和的な全人格陶冶を目指す全人教育を行うという福山平成大学の建学の精神に基づき、専門的な知識や技能のみならず、情報リテラシーや語学力、コミュニケーション能力など、様々な教養を身に付けられてきました。高められた総合的な人間力は、これからの社会において、必ず大きな力になることと思います。

福山平成大学は、地元福山の地域に根ざした実践的な教育や少人数制の教育を発展させ、「個の力」を育てる学びをいち早く整えられ、これまで多様な人材を輩出し、地域の社会経済だけでなく、我が国の発展にも大きく貢献してこられました。この度、御卒

業される皆様も、地域の課題を解決できる人材として、また世界に貢献できる人材として御活躍いただけるものと確信しております。

昨年、福山城が築城400年という大きな節目を迎え、多くの皆様の御協力により、盛大に祝うことができました。今後も、世界バラ会議福山大会2025の開催など、人や企業を惹きつける都市魅力を創造し、安心と希望の都市の実現に向け、力強く歩を進めてまいります。皆様には社会に出られてからも、いつかまた、福山市のまちづくりに貢献していただけることを切に願っております。

最後に、皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げますとともに、福山平成大学の今後ますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和五年三月二十二日

福山市長 枝 広 直 幹



福山平成大学

令和四年度学位記授与式 祝辞



卒業生の皆さん、ご卒業誠にめでとうございます。卒業生の皆さま方はもとより、ご家族をはじめ、ご関係者のお喜びもひとしおかと拝察し、心からお祝いを申し上げます。

さて、すでに3年に及ぶコロナ禍が、社会生活の様々な場面に制約を加えてきましたが、ようやく行動制限緩和の議論が始まり、社会や経済活動の再活性化が期待できる状況になりました。特に皆さま方におかれましては、学生時代にしか経験できない友人との交流や知見を広めるための旅行など、制約が多い学生生活であつたと心を痛めております。しかし、皆様におかれましては、逆境の中で培った経験を糧に、社会で大きく羽ばたき、活躍していただけるものと期待しております。

福山商工会議所は現在、社会、経済活動を再活性化するため、『オール福山!』『バイ福山!』で郷土福山を元気にする!』をキャッチフレーズに、地域の皆さま方の声に耳を傾け、産・学・官・民の橋渡し役を担い、上場企業や福山で成長した企業の皆さま方に商工会議所活動への参画を促し、福山を一つのチームとし各種事業活動に取り組んでいます。

また、こうした活動を地域の中小企業の皆さま方に支えていただくためには、専門的な知識だけでなく、技能や生きるコミュニケーション能力などの人間力が備わった人材が必要と考えております。

福山平成大学におかれましては、平成6年の開学以来、地元企業と連携したインターンシップや地域連携活動を通じ、座学だけでは得られない人間力や判断力の養成に注力され、地域の未来を担う優秀な人材を数多く産業界に送り出し、地域経済をしっかりと支えていただいております。

皆さまの諸先輩方は、当地域をはじめ各地の企業で立派に責任を果たされ、高い評価を受けておられます。先輩方が積み重ねてきた信頼と実績を鑑とし、立派な社会人として日本経済の発展や地域の振興に貢献していただけますよう、お願い申し上げます。

終わりに、皆さま方が新たな時代を切り拓く勇氣と情熱を持ち、社会の発展のために素晴らしい活躍をされますことを心からお祈り申し上げますとともに、貴大学の今後ますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和五年三月二十二日

福山商工会議所会頭 小丸 成 洋

門出を祝して卒業生に贈る言葉

悔いのない人生を

経営学部長 川久保 和雄



みなさん、ご卒業おめでとうございます。心よりお慶びを申し上げます。これから新しい社会人として旅立つ門出に際して、それぞれの夢と希望に胸をふくらませていることと思います。ぜひ自信を持って前進していくってください。

みなさんはコロナ禍の中で、大変な不便を強いられた期間が続きましたが、それを乗り越え、卒業証書を手になされました。みなさんの努力のたまものだと思います。

今日、大学卒業という人生の大きなゴールラインに到達しましたが、同時に社会人としての新しい人生のスタートラインにいます。人生100年時代ともいわれる、長い人生のスタートです。ぜひ、充実した実りある心豊かな人生を送ってください。

今後みなさんが経験する人生の中では、重要な選択や決断を迫られる局面が何度も待ち受けていると思います。その時に迷ってしまつて決断できず、せつなくての機会を逃してしまうこともあるかもしれません。また、よく考えずに安易な決断をしてしまい、後から後悔することもあると思います。多くの局面で最良解を選択して機を逃さず適切な決断を下して悔いのない人生を送ってください。

正しい決断・選択ができる決断力・判断力を培うためには、やはり経験を積み重ねることと同時に、勉強を続けて、人間力を高めていくことが重要です。

ぜひ目標・計画を立てて、勉強を続けましょう。それも漠然としたあいまいな目標ではなく、具体的な目標・計画を設定しましょう。短期的には1年後の目標を設定して、それを実現するための1年間の計画を作る必要があります。実際にその計画を実行に移して、1年後に目標をどのくらい実現できたかを振り返って、さらにその次の1年の計画を作成して、一歩一歩進んでください。また長期的には、今から10年後、20年後、30年後に自分がどういう人間に成りたいのか目標をたて、そのためには何をすればいいのかを具体的に考えて計画を作りましょう。

若いうちにどれだけ勉強したか、どれだけ努力したかによって、その後の人生が決まるといっても過言ではありません。漫然と過ごしていると、時間はあっという間に経ってしまいます。どうも時間を大切に、悔いのない人生を送ってください。私たちはみなさんのことを、これからも応援しています。期待しています。将来に向けて歩み続けてください。

最後にみなさんの今後のご健康、ご活躍を心からお祈りします。

令和4年度卒業生に贈る言葉

福祉健康学部長 永井 純子



皆さん、御卒業おめでとうございます。福山平成大学での学生生活はいかがでしたか。この数年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて本当に大変な日々でしたね。そんな中でもいろんなことに積極的に取り組むことができたか。福祉健康学部では、それぞれの学科における専門的な知識・技能・態度・思考力・判断力・人間力等の素養を身につけ、所定の単位を修得した人に卒業を認定し、学士（福祉学）こども学、健康スポーツ科学の学位を授与しています。

ところで、皆さんはSociety 5.0という言葉を知っていますか。内閣府によると、「Society 5.0」とは、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会とされています。Society 5.0「人間中心の社会」は、狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く第5期科学技術基本計画において我が国がめざすべき未来社会の姿とされています。

人工知能（AI）や情報通信技術（ICT）の急速な進展とともに、あらゆる情報がデジタル化される時代になっても、すべては人間中心の社会のためであり、人間の価値や役割を見失ってはなりません。現代社会は地球温暖化や環境汚染に加えて、大規模な競争激化の中で拡大する格差や分断にどう向き合うかなど、人類社会全体の将来に関する問題が山積しています。「何が良いか、悪いのか」、人として正しい判断基準（Criteria）を持ち、人々の幸せに貢献できる人になって頂きたいと願います。益者三友（正直な友、誠実な友、博学な友は、自分にプラスになる、損者三友（媚び諂う人、不誠実な人、口先の上手い人は自分のマイナスになる）という諺があります。良い友達を大切にしてください。

これからは、人生の荒波に揉まれることもあるかも知れませんが、そんな時、大学で頑張ったことを思い出してください。失敗することは実は非常に有益なことなのです。肝心なのはそれで潰れないことなのです。いかなる困難の中にもチャンスがあるはずですよ。いろんな人に助けをもらいながら結構です。率先して状況を改善する行動を起こしましょう。また、教室を離れても学ぶことを続けて下さい。いつかきっと成功する日が来ると思います。最後に一生懸命頑張ると息苦しくなる時期があります。そんな時はいつでも大学に来て下さい。私たち教員一同はいつでも皆さんの幸せを心から祈っています。

ご卒業おめでとうございます

看護学部長 木宮 高代



晴れの門出を迎えられた看護学部看護学科第13期生の皆さん、保証人の皆様にご心からお祝い申し上げます。未知の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大学生活では多くの困難があったことと思います。そのなかで、第13期生の皆さんの自己の感染予防対策・健康管理の徹底をしながら実習、勉学に取り組む姿は、まさに看護専門職の姿を映していました。

現在の日本は世界に先駆け超高齢社会となり、多様化する保健・医療・福祉に対応できる看護専門職が求められています。そしてその活躍の場は拡大し、役割の推進などが行われています。本学看護学部の教育理念のもと、皆さんは看護専門職に必要とされる知識と技術の習得、そしてそれを常に継続し続ける自主的な学びを行ってまいりました。

今、ここに質の高い看護・保健医療を実践する看護専門職として、第1歩を踏み出すこととなります。初めの一歩は小さいかも知れませんが、社会で仕事をしていく中で、本学での学びが身につけられたことを誇りに、情熱と努力で培った看護学の知識や看護技術を活かし、地域における医療・保健そして福祉向上のために自分の力を信じ、未来の可能性に向け挑戦し続けてください。社会人として生きていく中で様々な試練や困難にあたることを思います。そのような時には、講義や演習、グループワーク、実習などでも励まし慰め合った仲間がいること、私たち教員が応援していること、そして思い出せる共有できる大学がここにあることを思い出してください。これからは、自分自身で決めた道の中で、自他ともに認められる存在となり、それを維持していくために、これから生涯にわたって自分で学び、自分で解決していくという自己学習、自己研鑽が継続的に求められます。時には戸惑うこともあると思いますが、そんな時こそ丁寧に時間をかけて取り組むことが真の看護専門職です。社会人としての実生活もはじまります。他人に依存することなく、自分自身の考えに基づいて行動してもらいたいと思います。また、さまざまな人々との関わりでは、自分の精神や感情を制御していくことも忘れてはなりません。常に患者さんの心に寄り添い、共感することを忘れないでください。何年かを経たのちに、臨床現場でご活躍されている皆さんと出会うことを楽しみにしております。

また、助産学専攻科の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これからは助産師として大いに活躍され、看護専門職の発展に寄与されますことを期待するとともにご多幸をお祈りいたします。医療のスペシャリストは、時代の技術の変遷が速く、少しでも勉強を怠ると取り残されてしまいます。ぜひ日々の変化に負けず、努力を毎日重ねて、社会の要望に応え世の中に貢献されることを期待しています。

大学生生活を振り返って

大学生生活を振り返って

経営学科 松岡 大輔



福山平成大学に入学して、あっという間に四年が過ぎ卒業を迎えることになりました。

入学した時は、学業を第一としつつ、サークル活動やアルバイトなどもメリハリを持って楽しむことを目標として、学生生活を送っていました。

一年生の時は、とにかく取れる限りの授業を履修し、後で困らないように早めの単位取得を心がけていました。また、遅刻や欠席をせず、真面目に先生方の話を聞くことを徹底して行っていました。サークル活動にも積極的に参加しました。サークル活動では、先輩方と学外や御幸祭でのライブや模擬店を行ったことが、とても印象に残っています。

二年生からは新型コロナウイルスの影響でサークル活動が思うようにできなくなっていました。そのため、代わりに学業をより頑張ろうと思い、授業とともに資格取得にも力を入れました。自分で学習計画を立て継続し、結果として資格を取得できたというサイクルを資格ごとに経験できたことは、自分の中で大事な成功体験となりました。

三年生と四年生の間は、卒業論文に向けての練習や情報収集や執筆がメインとなりました。研究テーマを決めることに悩みましたが、一年生の時に授業の一環で環境問題に対して触れる機会があり興味があったため、三年生のプチ論文では気候変動問題、四年生の卒業論文では海洋ごみ問題に関する様々な主体の取り組みについて執筆を行いました。ゼミの先生の協力もあり順調に進み、無事論文を書き終えることができました。一つのテーマを年単位で時間をかけて執筆するという貴重な経験ができ、成長に繋がったと感じています。

大学生生活のおもいで

こども学科 仁井本 萌



四年前の春、福山平成大学に入学しあつという間に月日が流れ、卒業を迎えることができました。

私の大学生生活の思い出で特に印象に残っているのが、一年生の時に友達に誘われて参加した学科対抗の学長杯です。私たちの学科は学年も男女も混合のチームだったので入学したてだった私にとって、先輩たちや同級生と関わる事ができるとても良い機会でもあり、練習を重ねる中で徐々に仲良くなることができました。また、学科の先生がバレーの指導をしてくださりチームとしての形がつけられました。学長杯当日、みんなで声を掛け合いながら行うことで段々と緊張感もほぐれ、いい雰囲気ですべて勝ち上がりしました。決勝戦の最終セット、デュースとなるどちらのチームの声援も大きくなりとても白熱した試合でした。最終的には相手チームが一枚上手で負けてしまい第2位でしたが、とても楽しいおもいでとなりました。その後も、学長杯をきっかけに仲良くなった先輩方と学長杯が終わった後にも遊びに行ったり授業の相談をしたりとより充実した学生生活になったと思います。皆で協力し合うことは社会に出ても重要なことなのでとても貴重な経験でした。

学業に関しては、授業を欠席しないこと・課題はスケジュール管理を徹底し遅れず期日内に提出することで、基礎を固めることができました。実習では子どもたちや園の先生方と積極的に関わることで、子どもの発達の特徴や子どもへの配慮など学校で学んだ知識と実際の様子を結びつけました。部分保育の指導案では何度か悩むことがありましたが担当の先生にアドバイスをいただいたながら作成し保育することができました。学長杯で皆と交流する機会を作ってくれた先輩、そして、こども学科で四年間一緒に学んだ友達や先生方に改めて感謝の気持ちでいっぱいです。四月から社会人として気持ちを切り替えて、大学で学んだ知識・経験をもとに今後も頑張っていきたいと思っています。

学生のおもいで

福祉学科 飛田 萌衣



四年間の時の流れに驚かされると共に、充実した大学生活だったことに気付かされました。新たな土地での生活に、不安や期待を抱える中迎えた入学式。四年間を振り返ると、多くの経験と思い出が蘇ってきます。

私は、小学生の頃から視覚障害者や盲導犬に携わる職に就きたいと考え、本学福祉学科に入学しました。福祉学科では、「社会福祉士」と「精神保健福祉士」の2つの資格取得に向けて、勉学に励みましました。しかし、大学生活にも慣れてきた一年次の終わりにかけて新型コロナウイルスの猛威が降りかかってきました。マスク生活を強いられ、授業形態の度重なる変更にも戸惑う毎日でした。そのような中、二年次には「社会福祉援助技術現場実習」が始まりました。私は、知的障害者や精神障害者が利用している生活介護事業所で実習を行いました。が、初めて利用者と対面に関わり、その人の伝えたいことや必要なことを上手く汲み取れるのか、自分の思いをどのように表現したら伝わるのか、何もかもが手探りの状態でした。しかし、実習指導者をはじめとした職員の方々がとても丁寧な指導をしてくださり、ソーシャルワーカーとしての一歩を踏み出すことが出来ました。

今後は、盲導犬訓練施設を法人内で有している事業所で働きます。そこでは視覚障害と知的・精神障害が重複する人の生活を支援する役割を担います。将来は、盲導犬にかかわる仕事にも就きたいと考えています。このような機会に恵まれたのも、本学での多くの出会いがあったからだと思います。最後になりますが、これまで支えて下さった先生方、友人、家族に感謝の気持ちでいっぱいです。この四年間の経験を糧に、利用者一人ひとりに寄り添った社会福祉専門職としてのスタートを切りたいと考えています。

大学生生活を振り返って

健康スポーツ科学科 中村 愛子



四年前の春から瞬く間に時が過ぎ、今日卒業の日を迎えます。私はこの四年間でスポーツの各専門諸学を学ぶとともに、様々な新しいことに

挑戦しました。その一つとして、一年次の時にはオーストラリア・アスレティックトレーナー研修に参加しました。その研修の中ではスポーツ医学やトレーニングの専門家による講義を受け、海外との違いを直接体験することが出来ました。この経験は今後、私の進む道の過程で大きな糧となると思っています。

私は大学に入学するまで「スポーツに関わる仕事に就きたい」といった漠然とした将来を考えていました。日々の授業、今までの自分自身のスポーツ経験から、指導者・トレーナーになりたいと考えるようになり、「健康運動実践指導者」「健康運動指導士」などのトレーニング指導者に関わる資格取得を目指し、スポーツ医学、スポーツ栄養学、心理学など様々な勉強に励んできました。またトレーニング指導だけでなく、スポーツに関わる資格を取得してきました。様々な資格を持つておくということは働いていくうえで少なからず自分の武器になると考えています。卒業後はトレーナーとして仕事をしています。大学で学び、得た知識を活かして相手の求めるものに応えていける指導者でありたいと考えています。また、人の健康維持増進に対し指導者としてサポートしていきたいと考えています。

最後になりましたが、私がここまで成長することが出来たのは、これまで支えてくれた家族、手厚く指導してくださった先生方、いつも励ましてくれた友人などたくさんの人達のおかげです。その感謝を忘れずに、新天地でも頑張ります。

四年間の思い出を振り返って

看護学科 中本 菜緒



私は看護師に憧れて福山平成大学に入学しました。四年間の大学生活を振り返ってみると、看護師になるために必要なことを学んだ貴重な時間でした。

看護学科では、一般教育科目から看護の専門科目まで幅広く学ぶことができ、学年が上がるにつれ看護の専門性が増し、看護技術や臨地実習に向けた演習が行われました。初めは自信のなかった看護技術も友人達と協力し、練習を重ねることで習得できました。二年次の初めに世界規模の新型コロナウイルス感染症が拡大しました。そのため、対面授業から遠隔となり、パソコンを使用して授業を受けることになりました。遠隔授業について漠然とした不安がありました。また、基礎看護学実習では制限がある中で、学内と臨地での実習を行いました。臨地実習は三日間で、実際の患者さんと関わる時間が少ない状態でした。三年次後期からは、約半年間の臨地実習が始まり、いよいよ看護の場に出るのだという意気込みと同時に不安も感じていました。限られた日数でしたが、二年次よりも多く臨地実習を行うことが出来ました。今まで学んできた看護の知識や技術を活かし、患者さんに関わらせていただきました。患者さんが望んでいることや必要なことは何かなど、個別性を考えることが必要なのは何かとは想像以上に困難であり悩みました。その時には、実習指導者さんや先生に相談し、グループメンバーにも支えられて乗り越えることができました。たくさんの方の困難を乗り越えたからこそ、成長した今の私がいるのだと感じています。

大学生生活の四年間は看護師になるために必要なことを多く学び、とても貴重な時間だったと感じています。私は卒業後、さらに深く看護学を追究し、研究にも取り組みたいと考え本学の大学院看護学研究科看護学専攻修士課程へ進学します。





令和4年度 卒業生・修了者数

学 部	学 科	卒業生数
経 営 学 部	経 営 学 科	48名
福 祉 健 康 科 学 部	福 祉 学 科	31名
	こ ど も 学 科	37名
	健 康 ス ポ ー ツ 科 学 科	75名
看 護 学 部	看 護 学 科	86名
計		277名

研 究 科	専 攻	修了者数
ス ポ ー ツ 健 康 科 学 研 究 科	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 専 攻	3名

専 攻 科	修了者数
助 産 学 専 攻 科	7名

合 計	287名
-----	------



御幸五訓

- 一、真理を求め、道理の実践を志向する。
- 二、豊かな品性と魅力ある個性を伸ばす。
- 三、不屈の魂を養い、紐帯性を培う。
- 四、生命を尊重し、自然を畏敬する心情を育む。
- 五、誠実と倫を胸に刻み、夢の実現に挑む。

令和4年度 学生表彰者一覧

このたび、「学生表彰」として学長賞に次の5名の学生が選ばれ、令和4年度学位記授与式において、表彰されました。

学長賞は「学業部門」において、特に優秀な成績を修めた学生に授与されるものです。

学 長 賞

経営学科	松 岡 大 輔
福祉学科	妹 尾 彩 加
こども学科	河 村 美 里
健康スポーツ科学科	入 口 穂 希
看護学科	中 本 菜 緒

編 集 福山平成大学広報委員会(学報作成部会)

発 行 福山平成大学

発行日 2023年3月21日

福山平成大学

〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成正戸117-1

TEL 084-972-5001 (代表) FAX 084-972-7771 <https://www.heisei-u.ac.jp/>